

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501589		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム トロの森 1Fユニット		
所在地	札幌市清田区美しが丘4条7丁目7-12		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_unei=true&JigvovsCd=0170501589-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内とのつながりが良好で、事業所の行事に積極的に参加してくれます。職員が消防団に入団し、より一層町内地域とのつながりが深まったと思います。現在、新人職員が多数在籍しており、新人教育に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な交通の便に恵まれた住宅街にある木造2階建て2ユニットの事業所で、近くに公園、商店、レストランなどがあり生活環境にも恵まれている。事業所の目標に「地域社会との関わりを深め、いつでも立ち寄ってもらえる開放的なグループホームを目指すこと」を掲げ、地域の一員として町内会の役員を引き受け、地域行事へ協力し、利用者は地域の盆踊りなどへ参加して交流し、事業所行事に地域住民が参加し、七夕には子ども会から約30人が参加して相互に交流している。遠出の外出レク時には家族や町内ボランティアの協力を得ている。また、認知症についての理解を深めるため、毎年「ケアケア交流講座」を開催して地域に貢献している。運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族、利用者、地域住民、行政などが参加して現況報告、情報交換などを行い意見を運営に反映させ、会議の結果を利用者、家族、町内会に知らせている。年2回地域住民も参加して避難訓練を行い、職員が自衛消防団に入団して地域との協力関係を深めている。敷地内に庭と畑があり、利用者は散歩や畑作業で気分転換し、近くのスーパーマーケットで買い物を楽しみ、店員と馴染みの関係を継続できるよう支援している。利用者がその人らしい生活を送れるよう自主性を尊重し、個々の意向を大切にすることを常に意識している事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設長より全体会議のときに理念について説明をした上でユニットごとに理念を掲げ、敵的に見直している。	基本理念「尊厳を持って自分らしく生きる為の生活を支援する」を全体会議で説明し、各ユニット理念も作成して具体的な行動規範を掲示して職員で共有し、常に意識しながら「その人らしい生活」が実現するようケアに臨んでいる。	新たに採用された職員に対して、他の職員と同様に基本理念の理解に努め実践につなげるよう期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内行事に参加している。またほぼ毎日買い物に行き、店員さんとの交流をはかっている。	町内会に加入し、地域の一員として役員を引き受けて地域との関わりを深め、利用者は盆踊りなど地域の行事にも積極的に参加し、買物など日常的に交流している。外出レクにボランティアの協力を得ている。AEDの設置を表示して、地域の住民にもしもの時の利用を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、家族に向け認知症についての勉強会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、そこで事業所の現状報告、町内会の取り組みを一緒に話し合っている。	2ヶ月ごとに開催し、町内会役員、消防署員、地域包括支援センター職員、利用者、家族などが参加して、事業所の現状報告、事業などを報告して意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。会議を利用して火災訓練や町内行事などの情報交換・打ち合わせを行う。会議録を事業所通信「トトロメール」に掲載し、利用者・家族・町内会に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区内ケア連絡会や管理者会に出席し、協力をあおいでいる。また運営推進会議に包括支援センター職員の参加を促している。	行政担当者とは定期的に情報交換を行い、運営推進会議出席時、区の管理者会議やケア会議で情報交換、指導を得ている。消防署主催の研修会へ参加したり、SOSネットワークの研修会での意見交換など行政機関との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束研修に参加し、研修内容を職員と共有している。	外部研修に参加し、身体拘束等の事例を検討して研修結果を職員に伝達し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は防犯上夜間のみ施錠する。2階ユニットに行くことも自由である。心配な行動のある時には制止をせずに、それとなく見守りながら声がけをしている。SOSネットに加入し、安全体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加している。また事業内でも新人職員に向け説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。また契約時にも成年後見人制度の説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は項目ごとに家族へ尋ね、理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見用紙を定期的にご家族へ送付し、事業に対して意見や要望を頂いている。	日常の会話から利用者の意向の把握に努め、家族とは来訪時、運営推進会議参加時に意見・要望を聞いて運営に反映させている。「トロメール」で利用者の様子を伝え、アンケート調査を定期的の実施し、意向の把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議が数種類あり、職員会議で話し合われた内容を全体会議で報告する事によって反映している。	ユニット会議・職員会議・役員会・全体会議が定期的に行われるほかケース会議もあり、意見や提案を話しやすい環境で、職員の意見や提案を運営に反映させている。外部評価調査の結果を公表し、運営・ケアについて見直すことに活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を半年に一度行ない、給与の見直しや勤務状況を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成マニュアルを用いてOJTを行なっている。また、外部研修を積極的に促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア連絡会、管理者会に積極的に参加し、交流をもっている。また、相互事業に参加しネットワーク作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や入居時に本人の思いを聞いたり、また聞けないときは家族から情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の困っている事、要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を活用し、家族、本人の思いを書いてもらいどのような支援が必要か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行なってもらったりと、役割を持つ事でやりがいを感じて頂くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や遠出の外出レクに参加してもらい、本人、家族のつながりを持っていただくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報や親しい友人を誕生会に招いている。	散歩時の挨拶や地域の行事に参加して近隣の方との交流、図書館への送迎やいつも行くマーケットの店員と顔なじみの関係ができるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。誕生会には親しい知人、友人を招いて馴染みの関係を継続するよう努めている。利用者同士の交流もよい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者特性を、シートを活用し把握している。日々の生活で孤立しないように関わりをもっており、また届いた手紙を利用者に読んでもらうなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族との関係維持のため、広報誌を送ったり、行事への参加を促している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて、ご本人、家族の思いを聞きケアに活かしている。	食事の時や入浴中、買い物の行き帰りなどの会話から意向をくみとっている。入所後一ヶ月間は毎日家族に電話をして、連絡を密にしながら利用者の人となりや家族の意向の理解につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを用いて家族に記入して頂いたり本人から聞きだしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて今出来る事、出来ないことの把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に家族カンファレンスを開催し、その時に本人も参加できる方は参加してもらい話し合いを行っている。	利用者個々の日常生活を見守りながら、定期的に家族カンファレンスを開催し、利用者・家族の意向を反映させて、全職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	OJTにて、記録の重要性を説明し、状態だけではなく、気づきも書くよう指導している。週に一度、介護計画の評価出しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族カンファレンスを聞き、本人、家族のニーズを聞き対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な時には本人と一緒に買物に行ったり、図書館へ外出している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を導入する前に家族から意向を聞いている。必要に応じて家族にも訪問診療に同席してもらっている。	本人・家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力提携医への変更については入所相談の段階で家族・利用者に十分に説明している。また、診断書を基に医師同士の連携に協力して受診を支援している。毎週1回訪問診療が行われており、出来る限り家族にも同席してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度、同事業所の看護師が来て利用者の状態について報告、相談している。また訪問診療にも同席している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を取っており、24時間急変には対応できる体制が出来ている、入院時は毎日お見舞いに行き、利用者の状態を聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になる前に家族にインフォームドコンセントについて説明をし、終末期時家族の意向を聞いている。	入所時に重度化や終末期への対応指針を利用者、家族に説明し理解を得ている。容態に変化が見えた場合は、主治医に連絡をとり、本人・家族と協議し、看取りなど希望に添えるよう支援している。過去に1度医師、家族の協力のもと住み慣れた事業所で最後を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、救命救急講習に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、避難訓練を実施し、地域の方々にも参加して頂いている。	年2回の訓練は日中と夜間に分けて実施し町内の方の協力を得ている。避難階段、スプリンクラー、緊急時連絡網(町内会役員も含む)、火災報知器、AEDなどを備え、コンセントなど毎日点検している。町内からの逆通知ができるように工夫し、警報器は事業所外壁にランプをつけている。職員が自衛消防団に入団し協力関係を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	赤ちゃん言葉や目上の人に対しての対応についてオリエンテーション時説明している。	利用者の個性・生活層などを理解してそれぞれに合った挨拶や声かけを行っている。利用者の主体性を尊重し、間合いを見ながら何回か声かけして、利用者の気持ちがいよほつきりするまで待つなど人格の尊重を意識しながらケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の必要なものがある時は一緒に買物に出掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間に関して、利用者の都合を聞き、入っていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には化粧をして出掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る事を見極め、支援を行なっている。	メニュー、調理、配膳、片付けなど能力に応じ、職員と利用者が一緒に行っている。食事中は季節や好きなもの、家族のことなど会話ができる楽しい場になっている。毎日の食材購入には利用者も行き、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないが、旬のもの、食物繊維が多いものをメニューに取り入れている。水分も本人が摂取しやすいものを提供し、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで大丈夫な方は声掛け、見守り出来ない方は介助にて行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツで誘導を行なっている。またセンサー方式シートを用いて排泄パターンを把握している。	夜間のみオムツ使用者が数名いるが、基本は個々人の排泄パターンを把握し、適時にさりげなく声かけなどで誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取ったり、食物繊維のものの提供、散歩や体操など体を動かす時間を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定していない。出来る限り、本人の希望時間帯を聞き行なっている。	入浴は毎日でき、利用者の希望に応じて支援している。入浴後ビールやお酒を楽しむ利用者もいる。男性職員が多く同性介助が難しい面があるが、希望があればできる限り応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は特に何もせず休息したりする時間にあてている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が読めるようにファイルに綴っている。内服等変更になったときは用途によってはシートを活用し、気分の状態、排泄状況を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな物を買に行ったり、食べに行ったりと外出の機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出の外出レク時は家族、町内ボランティアに依頼し出掛けている。	地域の行事への参加、洞爺湖へのドライブ、公園などへの散歩や買物に出かけて日常生活に潤いの変化を提供するよう工夫している。畑の作業時には町内の方が案内や声かけの支援がある。お正月に家族と一緒に出かける利用者もいる。買い物などはいつでも希望に沿って出かけるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によって自室で所持とし、管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はその場ですぐ電話を掛けてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物に季節の分かる装飾品を使用したり、職員には声のトーン、足音には注意するよう伝えている。	居間・食堂は一体的でサンルームがあり、天窓から陽が入り明るく、窓から庭や畑がよく見え、季節を感じられる。窓際の棚には町内の方やボランティアの作品を飾り、利用者はそれぞれテーブルの周りに集い、おしゃべりや趣味の手芸や読書などを楽しめる居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりを用意し、利用者同士のお茶会やスツーフとゆっくり話せる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン以外は全て利用者に用意していただき、特に持って来てはダメなものはない。	カーテン以外はすべて使い慣れた家具を利用者に持ち込んでもらっている。室内の配置、飾りつけなども安全面に留意する以外は利用者に任せている。掃除、洗濯物なども利用者が管理し、その人らしい住まい作りを支援している。猫を飼っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当がつくようにカレンダー、時計を数個用意している。手摺も必要な場所のみ設置している。		